真校魅力だより その⑮

真室川校の伝統と誇りをつなぐ ～体育祭・陸上競技部合同練習会～

◆真室川校体育祭（６月９日（木）～１０日（金））

体育祭は、心身の健全な育成と自主的な企画・運営・参加を通じて社会力を養うことを目的に紅白対抗戦で毎年開催しています。生徒たちは、３年生を中心に10日ほど前から大会全体の準備を始め、各組に分かれての準備のほか、種目練習にも積極的に取り組んでいました。

競技初日はグラウンドで100M競走や綱引き、組対抗リレーなどの運動会的種目、２日目は体育館でバスケットボールやバトミントン、バレーボールなどの球技大会的種目を実施しました。

両日とも天気が良く夏日に迫る気温の中、熱中症に注意しながら、両組とも組頭を中心に暑さに負けない熱戦を繰り広げていました。順位は、競技種目の得点に入場行進や団結セレモニーの得点を加えて争われ、今年は、紅組の優勝となりました。最後に栗田侑奈体育祭実行委員長（３年）が「少人数の中、紅白協力し合って素晴らしい体育祭になりました。今後の行事も全校生徒で成功させて行きましょう」とまとめてくれました。また、優勝した紅組組頭の佐藤旭さん（３年）は「初日は負けていたので、明日は頑張ろうと声をかけ合った。楽しんでやれたことが優勝につながったと思う」と勝利の弁を語ってくれました。

◆真校陸上競技部と真中特設陸上部の合同練習会（６月２日（木）・６月６日（月））

陸上競技部合同練習会は、中学生と高校生の交流を図るとともに、お互いに刺激し合いながら練習することによってレベルアップを目指すもので、10数年前から実施しています。

開催した２日間ともあいにくの雨模様となり、体育館を会場に投てき（砲丸投げ）と跳躍（走り高跳び）の練習を行いました。

軽いランニングからダイナミックストレッチを行い、投てきと跳躍に分かれて練習を開始、中学生は、細かいところまで熱のこもった指導を１時間半ほど受けていました。

練習に参加した真室川中の沓澤美桜さん（２年）は「意外と大変でしたが楽しかった。練習のコツを教わりとても参考になりました」と感想を述べてくれました。

高校生の指導を受けながら投てきの練習

ようこそ先輩!! vol.6

真室川校の卒業生は、様々な職業に就いて多方面で幅広く活躍をしています。そんな先輩方の思いや後輩たちへのメッセージをお届けします。

安彦　亮（りょう）さん
（平成18年度 卒業生）
最上広域市町村圏事務組合
消防本部 勤務

～全国制覇が一番の思い出です～

真室川高は小規模校のため、先生と生徒の距離がとても近いことが特色であり最大の魅力です。先生方はいつも寄り添い、可能性を引き出してくれ、私を大きく成長させてくれました。高校での一番の思い出は、２年生の冬に秋田県鹿角市で行われた全国高等学校スキー大会（インターハイ）クロスカントリー競技男子リレーで念願の全国優勝を果たしたことです。部活動一色の高校生活でしたが、小さな事でも諦めず努力を続けて行けば成功につながる。努力は裏切らない。「継続は力なり」はスキー部で培ったものです。

大学に進学しましたが、救急隊の活動を目の当たりにして憧れを持ち、人の役に立ちたいと地元に戻り今の職場に就職しました。現在、予防課で地域住民の生命財産を守るべく火災の未然防止等の仕事をしています。今は、事業所における効果的な消防訓練として、実際の火災に近い状況で訓練を行い、個々の対応力の強化が図られる「ブラインド型消防訓練」の普及に努めています。

後輩の皆さんは、夢中になるものを見つけ、成し遂げるまで諦めず取り組み続けることが大切です。社会人になるとそれが役に立つし自信にもつながります。やりがいのある仕事を見つけ立派な社会人になってください。